藤女子大学
藤女子短期大学

No. 12

図書館だより

'80. 12

図書館見学

宇野春夫（歴史学）

図書館と言うと，私のごくわずかな経験にすぎないが，学生の頃，東京駒込本富士町の「東洋文庫」に通っていたことを思い出す。この文庫は，大正の頃，三菱の岩崎家が，旧中国の政治顧問をしていたモリソン氏の文庫を買って設立し，現在－国会図書館支部－和漢書をはじめアジア諸国の文献約70万冊を所蔵して，東洋学の方面では周知の図書館である。蔵書については，最近，京都の同朋社のＰＲ誌「同朋」に簡明な解説がのっているが，私は北大の先生の紹介状をもらって，半年余りこの文庫に通っていた。巣鴨の染井のいとこの家に泊まりこんで，歩いて20分ほどの道のりであったが，閲覧室にはいつも数人の先生方が見えて史料を写していた。昼休みになると室外に出され，地下の控え室でかしこまって先生方の雑談をうかがったが，息ぬきに，時々，文庫のすぐ正面にある六義園－江戸初期の名園－に逃避して昼寝をすることもあった。その頃，先生から手紙をいただいて，ある漢籍の版本の調査をたのまれた。先生がこまかに指示を与えて下さったので，どうにかその役を果たすことができたが，幸いなことに，その調査のため他の図書館を拝見する機会に恵まれた。先生の紹介で初め世田谷瀬多の「静嘉堂文庫」をたずねたが，この文庫は，大正の頃，同じ岩崎家が設立したもので，現在－国会図書館支部－和漢書13万８千余冊を所蔵しているが，閑静な自然の中に在って，私のたずねた時には，狭い閲覧室の中で唯１人の先生が鉛筆をはしらせていた。ここでの調査を終えて次に目黒駒場の「尊経閣文庫」をたずねた。この文庫には，加賀の殿様前田家の所蔵する漢籍が収められていて，田舎学生の私は，通された閲覧室が殿様の御前会議室ではないかと錯覚したが，京都の先生と研究生の方が旧い漢籍を写していた。最後に宮城の大手門を入り，「内閣文庫」の雑然とした事務所の片隅で調査のことを終えたと思う。かなりかたよった堅苦しいものであったが，この時の文庫めぐりが，学生の頃，図書館にふれた唯一の経験で，古い蔵書をほんの少しかいま見た思い出がのこされている。

その頃は小使い銭がとぼしく，たまたま神田の古本屋で，絶版と目されている専門書をみつけても買うことができなかった。最近は新刊書や古書の復刊が氾濫ぎみで，その買えなかった専門書が，書店の新刊目録にのって，あっと驚くことがある。卒業してから少しずつ本を買い始めたが，買いためた書物を眺めていると，その時々の自分の趣向がかなり不安定で，読もうと思った書物が，そのまま書棚の空白を占拠しがちである。蔵書とはそんなものかもしれないが，図書館の蔵書を利用する方が，より無駄が無く賢明なことのようにも思われる。

図書館をあなたのものに

― 保育関係資料の紹介 ―

1. はじめに

毎回特集しています「図書館をあなたのものに」も10回目となりましたが，今回は「保育関係資料の紹介」というテーマでまとめてみました。なんとなくとっつき憎そう……などといわずにちょっと目を通してみて下さい。少しでも皆さんのお役に立てるものを提供することを，この「図書館だより」は常に考えているのです。

保育科の皆さんは，新学期のキャレルガイダンスで，利用法と合わせて資料についても案内していますので，資料の使い方にもかなり慣れていることと思います。ここでは，保育科の皆さんだけでなく，一般教養として知識を身につけたい，あるいは実生活の中で疑問に思うことを調べてみたい――そういう方々にもお手伝いできたらと願っています。

一口に「保育」といってもその内容は実に多彩であります。英文学や国文学のように一つのまとまった学問の形としては現われてきません。保育は，生きた人間を対象とする実践的活動と深い関わり合いをもつことから，多面的要素が含まれてくるのでしょう。そこで，一般教養科目との関連付けから調べていかなければなりません。保育科のカリキュラムをちょっとのぞいてみても，心理学，教育学，社会福祉学，医学，音楽といった学問が含まれています。これだけのそうそうたる学問が関係しているのですから，いかに幅が広いかわかっていただけると思います。この図書館では，資料を探しやすくするため日本十進分類法によって資料を分類して分類番号を与えていますが，その日本十進分類法に照らし合わせてみていきましょう。主に参考図書を中心にしながら，雑誌，一般図書，書誌にも少し触れてみます。

2. 参考図書

〝参考図書とは，連続的に読むというよりもある決まった項目の情報を調べてみるために，項目の配列や取り扱い方に工夫がしてある。〟と定義されていますが，事典，辞典，ハンドブック，年鑑，年表などがこれにあたります。

心理学〔140―149〕　（注：数字は分類番号）

この中でも特に，発達心理学の中の児童心理学〔143.3〕が中心となります。但し，特定の主題をもつものは，その主題のもとにおさめるとなっていますので注意して下さい。たとえば教育心理学は〔371.4〕となります。

児童心理学事典（上武正二 他編　協同出版）
児童心理学の各領域における理論，研究方法の概観，現在の研究水準と主要な研究及び今後の課題と展望を扱っています。体系的ハンドブック形式の事典といえるでしょう。

児童学事典（松村康平 他編　光生館）
総合的な児童理解が可能な百科全書的性格をもっています。人間，文化，社会等大きく12章に分けられ更に約1,800項目に分けられ，五十音順に配列されています。

児童心理学ハンドブック（波多野完治 他編　金子書房）
やや専門家向けに児童心理学全般に亘って論述しています。

図説児童心理学事典（高野清純 他編著　学苑社）
記述を最小限にとどめ，見る点を強調しています。幼児・児童心理学の入門書，あるいは参考書として適しています。

児童臨床心理学事典（内山喜久雄 編　岩崎学術出版社）

幼児・児童・青年の理解，診断，治療ないし指導の他に，児童心理学の論理的基礎や各種の隣接領域についても，必要事項を網羅しています。中項目を中心として1,300項目。

心理学事典（下中邦彦 編　平凡社）

感覚＋知覚心理学ハンドブック（和田陽平 他編　誠信書房）

岩波小辞典心理学（宮城音弥 編　岩波書店）

精神分析用語辞典（J．ラプランシュ 著　みすず書房）

社会病理・社会事業　〔369〕

児童福祉，社会福祉や保育所関係がこの項目に含まれます。

社会福祉辞典（中村優一 他編　誠信書房）

社会福祉とその隣接領域の約3,200項目を五十音順に配列し，中，小項目により，簡潔な解説が加えられています。

児童福祉六法（厚生省児童家庭局 編　中央法規）

子ども白書（日本子どもを守る会 編　草土文化）

青少年白書（総理府 編　大蔵省印刷局）

社会福祉事業辞典（塚本哲 他編　ミネルヴァ書房）

児童福祉施設一覧　保育所篇（日本保育協会編）

社会福祉用語ハンドブック（柴嶺昇 他著　日本文化科学社）

日本福祉年鑑（寺ノ門栄 他編　立風書房）

教育　〔370.3〕

教育学大事典　全6巻（細谷俊夫 他編　第一法規）

事実の提示をした上で理論的考察をしています。1～5巻は教育の各事象，人名等を項目としてとりあげ五十音順に配列。6巻は資料編になっています。

現代教育用語辞典（天城勲 他編　第一法規）

現代及び現代以後の教育問題を考える上で最も基本的で重要と思われる用語を選び，的確公正な解明と，簡潔で平易な表記を目的として編集された辞典です。五十音順配列。

家庭学習指導事典（三井為友 他編　第一法規）

小学校から高校生までの家庭での学習を理論的にまとめると共に，実践的な方法を示し，更に未来像まで体系的に解説しています。

現代家庭教育事典（堀秀彦 他編　岩波書店）

教育相談事典（桂広介 他編　金子書房）

教育事典（平塚益徳 他編　小学館）

世界教育事典（平塚益徳 監修　帝国地方行政学会）

教育心理学　〔371.4〕

学習心理学ハンドブック（波多野完治 他監修　金子書房）

教育心理学新辞典（牛島義友 他編　金子書房）

教育心理学小辞典（古賀行義 監修　協同出版）

初等中等教育　〔376〕

この中で，幼児教育・幼稚園・就学前の教育〔376.1〕が中心となり，保育関係の資料が最も多く集まっている分野です。

児童学ハンドブック（飯島篤信 他編　朝倉書店）

児童に関して総合的に扱った児童学のための便覧です。主として小学校生徒までを対象として，21章に細分してあります。

幼児の教育用語事典（平井信義 編著　教育出版）

幼児教育に関する基本用語1,500余語を厳選し五十音順に配列し，実践の立場から簡潔に解説しています。付録として，保育要領，幼稚園教育要領，保育所保育指針，の3点がついています。

保育学事典（岡田正章 他編　光生館）

幼稚園，保育所を中心として保育問題全般を扱い，保育の研究者，及び実践面に従事している人，保育に関心ある人達を対象とした比較的高度な内容をもった事典です。

幼稚園参考書　その教育と運営（東京都私立幼稚園協会 編　日本私立幼稚園連合会）
全体を教育計画編，領域別指導編，管理運営編の3編に分け，更に章，節，項目に細分して図表，写真，具体例を多数用いて，保育実務の方法を解説した手引書です。
就学前教育事典（岡田正章 他編　第一法規）
教育学，心理学，社会学，医学，児童福祉，行財政学などあらゆる学問分野から解説をしています。
世界の初等教育（UNESCO著 民主教育協会）
保育ハンドブック（碓井隆次 他著　六月社）
乳幼児保育ハンドブック（碓井隆次 他著　ミネルヴァ書房）
母と子を結ぶ幼児教育の百科――2～5才（横地清 編　三省堂）
幼稚園事典（辰見敏夫 編　千葉出版）

特殊教育　〔378〕
心身障害児教育・福祉・医療総合事典（大川原潔 他編　第一法規）
障害児の教育，福祉，医療の各面を相互に関連させながら，体系的に解説した便覧風の事典です。
心身障害児教育指導事典（伊藤隆二 他編　福村出版）
心身障害児教育指導の方法を「心身障害児理解の方法」以下12章に分け，表や図を使用して詳細かつ具体的に解説してあります。
特殊教育事典（特殊教育事典編集委員会編　第一法規）
養護・訓練指導事典（大川原潔 他編　第一法規）
身体障害事典（小池文英 他編　岩崎学術出版）

小児科学・育児学　〔493.9〕
子ども家庭医学事典（東晃 他編　第一法規）
新生児から中学生までの子供の健康と病気について書かれています。
育児としつけ百科（中村兼次 著　主婦の友）
新生児，発育と生理，栄養，きもの，生活としつけ，健康管理と病気などに分け，具体的にわかりやすく解説してあります。
ベビー百科（内藤寿七郎 監修　タイムライフインターナショナル）
育児の百科（松田道雄 著　岩波書店）
新版育児の新事典（緒方安雄 著　実業之日本社）

3. 雑　誌

雑誌類の特徴としては，現在問題になっている事柄や動向を，タイムリーな情報として得ることができるという点でしょう。新着誌は閲覧室の新着雑誌コーナーに並びますが，バックナンバーは，合冊製本されて学術雑誌コーナーに並ぶか，書庫に納められます。また大学，短大などの紀要や論文集も，一般には市販されていない貴重なものです。雑誌や紀要類は案外知られていないようですが，その特質を生かすべくもっと有効に利用してほしいと思います。

保育関係の主な雑誌
現代幼児教育
保育問題研究　複刻
保育の友
月刊保育とカリキュラム
キリスト教保育
教育心理
精神薄弱児研究
小児保健研究
季刊総合乳幼児研究
幼児の教育
幼児と保育
児童心理

保育関係の主な紀要
愛知淑徳短期大学研究紀要　千葉経済短期大学初等教育科研究紀要　藤女子短期大学保育科学生紀要　函館大谷女子短期大学紀要　高知女子大学保育短期大学紀要　名古屋市立

保育短期大学研究紀要　名古屋市立保育短期大学幼児教育研究所研究紀要　大分大学教育学部研究紀要　清和女子短期大学紀要　四條畷学園女子短期大学研究論集　東京学芸大学紀要：第1部門教育科学　山形県立女子短期大学紀要　山口女子大学研究報告：1部人文・社会科学　横浜国立大学教育紀要

4. 一般図書

参考図書の欄でも書いたように，日本十進分類法でみると，保育関係の中では幼児教育，幼稚園，就学前の教育の項目が中心となります。これは更に細かく分けられます。その分類表をここにあげますので，これを参考にして自分の目的とする主題の図書を探し出して下さい。

376.1	叢書，年報，随筆，辞典，伝記
376.11	理論，方法，研究
376.12	教育史，幼稚園史
376.13	社会，生活指導
376.14	健康指導
376.15	科学指導
376.16	絵画，工作
376.17	音楽，舞踏，あそび，運動
376.18	話，劇，言葉
376.19	その他　幼児絵本

保育関係の主な一般図書（閉架図書の中から）

現代保育講座　全5巻（金子書房）

保育学講座　全10巻（フレーベル館）

保育講座　全18巻（医歯薬出版）

明治保育文献集　全9巻　別巻1（日本らいぶらり）

大正・昭和保育文献集　全14巻　別巻1（日本らいぶらり）

幼児の教育全書　全6巻（教育出版）

幼児教育学全集　全6巻（小学館）

こどものずかん　全10巻（ひかりのくに）

5. 書　誌

これは，自分の必要とする主題に関する文献を早く正確に探すための二次資料です。書誌を上手に利用することによって，容易に文献が探し求められます。この書誌で資料名はわかっても，当館に所蔵していない場合は，所蔵館から複写をしてもらうような方法もありますので，係員に相談して下さい。

保育関係の主な書誌

雑誌記事索引――人文社会編：教育・文化（国立国会図書館 編　紀伊国屋書店）

学術的な雑誌を中心に収録して，主題索引，相関索引，著者名索引，収録誌名一覧などがあります。

私立大学・短期大学紀要類論文題目索引（東京都私立短期大学協会図書館研究委員会編　東京都私立短期大学協会）

各大学・短期大学から出された紀要や論文集を主題別に分けて，執筆者のアルファベット順に配列されています。執筆者索引あり。

教育学・教育問題に関する10年間の雑誌文献目録　昭和40～49年（日外アソシエーツ編　紀伊国屋書店）

雑誌記事索引を再編したもので，主題文献目録のほか巻末には事項索引（主題及び人名）と収録誌一覧がついています。

保育学年報――保育関係文献目録（日本保育学会 編　フレーベル館）

日本保健関係文献集（小林芳文 他編　ジャパンメディカルサービス）

保健，養護，福祉，保育に関した内容をもつ雑誌を対象に収録してあります。

――子供の成長，発達を見守り手助けするのが大人の責任であり義務である。それを果たす営みが保育と呼ばれる暖かい人間的わざであり，尊い仕事である。――というような文章を目にとめました。その尊い仕事のためにも，図書館の利用をお待ちしています。　（おわり）

風変りな図書館通い

石崎 瓔子（保育学）

大学生になったらば，大人の考えている深遠な世界に自分も足を一歩踏み入れてみよう，外国語のひとつはマスターして国際的な人間感覚に触れてみたいとの思いをもっていた保育科の学生達は，この望みを実現しようとすると，したいこととせねばならぬこととが相反するゆえに日々葛藤の中で生活していることをよく承知している筆者は，図書館の味をしってその戦いにうちのめされぬように願っている。

人の話し声，さまざまな物事のごく少ない図書館にたった一人で，ただ腰かけて書物の中にうまってみる。そこで長時間をとることはむずかしいだろうから，少しの時間を週に2度3度でもよいだろう。その時には一冊の書物も手にせずに過ごすことになるかもしれない。それでもよいと思う。

その頭に浮かぶ考え，心に湧き出る思いに気が止って我はなんと幸いな環境におかれていることか…。このこととあのことは矛盾していることなのに両方に思いをよせるがために愚かな行為をしているものだ等と自らが気高い世界に引き上げられてゆく。

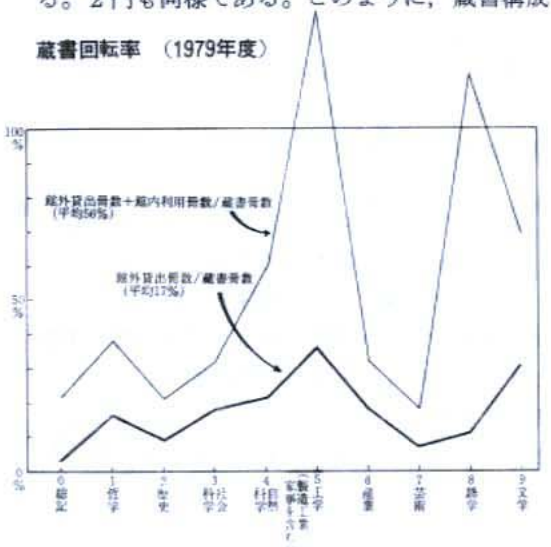
そんな体験をしているならば，卒業後に知識の切り身を買い求めるのではなくて，入学当初にいだいた尊く，かつ妥当な欲求にひかれて図書館を訪れ息の長い大学生として暮らすことであろう。

数で見る利用とサービス

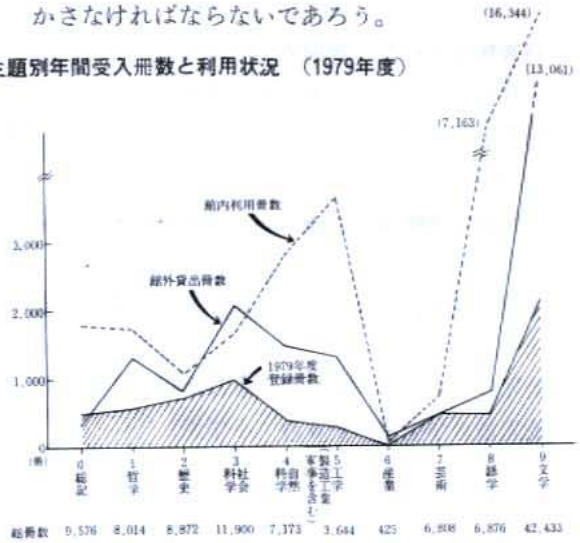
統計資料より

前回は蔵書の量的な面を取上げたが，次にその構成内容が実状に合ったものかどうか，部門別に資料の利用状況を見てみよう。たとえば，5門は回転率が最も高いにもかかわらず冊数は少ない。また7門は8門と比較すると，冊数はほぼ同じであるのに回転率は大きく下廻っている。2門も同様である。このように，蔵書構成と利用頻度との間にアンバランスがあるのは，学生の要求に充分には応えていないということではないだろうか。利用傾向はカリキュラムや資料の開架閉架などによっても左右されるため回転率だけで判断することは難しいが，現状を把握することによってこれからの資料選択に生かさなければならないであろう。

蔵書回転率　（1979年度）



主題別年間受入冊数と利用状況　（1979年度）



資料紹介

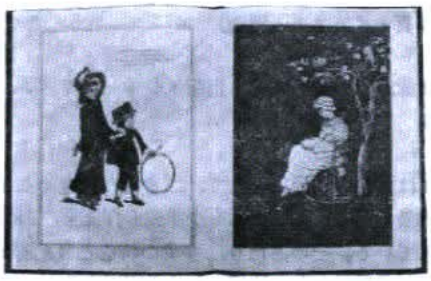
複刻　世界の絵本館

― オズボーンコレクション ―

あなたも私と一緒に楽しい絵本館を旅してみませんか。カナダのトロントから，はるばる海を越えてやってきた絵本が35冊。おなじみのシンデレラや赤ずきんちゃん，おとぎのアリスたちの顔も見えますよ。

オズボーン・コレクション――その歴史をたどってみると，イギリス，ダービーシャー州立図書館長として児童奉仕に熱心だったエドガー・オズボーン氏が，1949年，カナダのトロント公共図書館に，2,000冊の児童図書を寄贈したことから始まります。そして，その後も図書は増え，今は，15,000点以上の蔵書を誇る大きなコレクションとなりました。その中から特に選ばれた35冊が，内容，色調はもとより，版型や装幀まで忠実に再現されて複刻されたのです。

世界の絵本の中で，イギリスはその先駆をなした国として名高いですが，イギリスの絵本の歴史，出版の歴史を語ることは，同時に世界の絵本や出版の歴史を語ることになるとまでいわれています。その観点からみても，この18世紀から19世紀末までの古典的絵本35冊は，世界の絵本の歴史における様々なエッセンスが凝集されているとも評されているのです。



（K・グリーナウェイ「窓の下で」より）

主な特徴をあげてみますと，まず絵本の歴史の中で画期的な作品が幾つか収録されています。著名な挿絵画家や，美しい装画の作品が多数あります。珍しい形体や編集の絵本も収録されています。マザーグースや童話集など，イギリス内外の有名なお伽話や昔話も多数入っています。絵本の出版，印刷，製本の歴史も合わせて概観できます。――などというと固苦しく聞こえるかもしれませんが，思わず手にとって中を開いてみたくなるような楽しくて夢がある絵本たち，といったほうがイメージが湧くでしょうか。

私が最も興味をひかれた一冊に「窓の下で」という本があります。皆さんも一度はどこかでお目にかかったことのある絵だと思います。愛らしい子供の世界が，ページいっぱいにあふれていて，ひとときそんな子供たちの中にすうっと入っていけそうな気がしました。19世紀3大挿絵画家の1人といわれたケイト・グリーナウエイの詩と絵が見事にマッチしていて，彼女の代表作といわれています。

「シンデレラ」は，パントマイムおもちゃ絵本という一種の仕掛絵本になっています。様々の大きさの絵がとじ合わされていて，それを重ねると次々に絵が変化して場面が変わるのです。子供たちにとっては，実際に舞台で上演されているような感じがしたのでしょう。文章も前半は詩，後半は散文というように，細かい点まで行き届いた心づかいを感じました。

チャップブックという小さな本。これは「呼び売り本」と訳され，行商人によって販売された絵本のことです。ここには10×7㎝の本が3冊，1冊づつていねいに紙に包まれていて私もわくわくしながらそのカバーを開いてみました。内容的には，ここにある「ダイヤモンドとひきがえる」のように庶民的でかみ砕いたものが多かったそうですが，独得のおもしろさをもつ木版の挿絵がついていました。

現代の絵本に慣れているせいか，最初ちょっと異質な感じを受けましたが，そこに何か暖かいものを感じとれたのは，手づくりの心が伝わってきたからでしょうか。――ここではごく一部しか紹介できませんでした。かけ足で通り過ぎた絵本館，今度は皆さん一人一人で，直下にこの絵本たちに出会って，歴史の香り，イギリスの香り，そしてメルヘンの香りを思う存分味わっていただきたいと思います。

（昭54　ほるぷ出版）

事件後10年を迎えて

三島由紀夫資料　(54年度受入)

三島由紀夫が生命を賭けて自衛隊に呼びかけ，自刃をして各界に大きな刺激を与えたのが昭和45年の晩秋，もう10年になる。この号ではこの事件に関するコレクション「**三島由紀夫資料**」について紹介をしたい。

この資料は，主に昭和45～46年に三島由紀夫の自刃に関連する記事を掲載した，新聞・雑誌など353点で構成されている。量・質ともに不完全ではあるが，総合誌・文芸誌からSM小説誌また女性週刊誌などと，類を問わぬ雑誌の集成と新聞を眺めると，今日ではすでに失われ，振返ることのできない同時代人三島由紀夫と社会の動きをうかがい知ることが可能であり興味深い。　資料掲載の記事約2千件は，大略下記の区分で**記事目録**が作られた。

事件報道
(事件―発生と経過・檄，反響―国内・投書・アンケート・国外，裁判，葬儀，追悼の夕・憂国忌)

評論・随想
(事件評・感想―事件―三島の死，回想・追想，人物評，作家論・作品論・文学論，文芸時評，社会・思想，社説・コラム)

本人著作
(遺稿，再録・書簡ほか，座談・対談ほか)

生　活
(本人―語録―伝ほか，家族，その他)

記録・写真
(ドキュメント，年譜・書誌，写真・イラスト・漫画)

その他
(自衛隊，楯の会，映画・出版・ジャーナリズム，雑)

特集記事　　**録音**

図書館では資料の整理に際して，できるだけきめこまかくと工夫をしたので，連載された論説も読者の声も，首相談話も小学生の作文も，外電もマンガも全部がそれぞれ**記事目録**に含まれている。そのあたり，多少の特色と言えるかも知れない。　他に資料の全容を示す**資料目録**があり，印刷される予定であるが，当分は出納台に照会をしていただきたい。

資料は，館内閲覧と複写のみの取扱いになる。新聞，週刊誌などは係が補修中であるが，長期的な保存と利用のために，それぞれ御配慮をいただきたいものである。

三島由紀夫の死，思想・作品とのかかわり，性格，皇道・国軍論，唯美主義，色情倒錯，ギリシャ悲劇の完成――資料に含まれる記事は多彩である。新潮社1千万円・文芸春秋社10万円―香典のゴシップや，裁判のうら話，新聞死亡広告，首相談話，野党声明と，事件をめぐる社会の渦は更に大きい。不完全なコレクションながら，既蔵の図書や雑誌と併せて本資料を利用していただきたいと思う。　将来は**記事名**と**執筆者名**の**両索引**を作成する方針が決り，すでにマスターカードをまとめ終ったが索引編成は未着手で，これについては後日をお待ちいただきたい。

(写真は本資料中の事件直後週刊誌の一部から)

閲覧室にて

『平行読み』

佐藤　慎子（国文科２年）

「キャレルお願いします。」顔馴染みの司書のお姉さんは，カードを探す前にパッチをくれる。別に閲覧室ですむ時でもキャレルに入る。書庫の中は真夏でもひんやりした空気と静寂が漂い，時にはとぎれとぎれにピアノの音。隣に他人のいない大きな机に向かうと，学校にいることを忘れ，自分の部屋にいるような安らぎをおぼえるのである。

本の読み方は人それぞれだ。一つのジャンル，一人の作家を集中的に読む人。手あたりしだい何でも読む人。話題作を追う人。鉛筆片手に傍線引く人，ぬき書きする人。おもしろいと思うと誰彼かまわず薦める人，感想，粗筋をしゃべりまくる人，一人黙々と読む人。

『平行読み』これは，私が自身の読み方につけた呼び名である。平行線一本目――これは読まなければならない本。レポートの為，授業の為の資料や参考図書。あるいは趣味でやってる音楽の為の基礎事項や歴史関係の本（歴史は苦手なので本当は読みたくない）など。二本目の本――もういたって明快，読みたい本。大好きな中也関係に始まり，推理，ＳＦ，童話に至るまで，気の向くまま目のとまるまま乱読の限りを尽くす。平行線三本目――これは読むべき本で急がないもの。本や話の中で出てきて読んだ方が良いと判断した本，読みたいと思ったけど手もとになく，わざわざ買うほどでもない本。文庫になってない本(単行本は高いので)。これらは機会があれば読むことにして，メモしておく。これら三本線上の本を同時に読んでいくから，常に４～５冊の本にしおりがはさまっていることになる。第一線上の本は，地下鉄の中，バスの中，時間がない時は悪いと知りつつも講義中にむりやり読む。第二線上の本は，家で好きなレコードをかけ，お菓子でも食べながら。そして，気分転換に第三線上の本を。

こんな私をつかまえて友達は言う。〝読書家〟と。ほんとにそうなの？！

私と読書

古谷　郁子（英文科１年）

まず最初に，私はなぜこの「図書館だより」に書くことになったかを説明します。

それは十月のある日，図書館で友人と二人，『お芋料理のいろいろ』の載った雑誌を見ていた時でした。いつもお世話になっている司書さんに，「書いてみませんか。」と言われました。

私は，高校時代に，作文で〝Ｄ〟の成績をもらったことがあります。私は作文は好きでしたが，その時からきらいになりました。それは自信満々の作文でしたから，ショックも一層だったのです。そのＤのついた作文は机の奥にしまいこみ，大みそかに机の整理をした時，なにくわぬ顔をしつつ，（内心ではショックがぶり返していたのですが）他のゴミといっしょに，捨ててしまいました。

でも，司書さんからお話があった時，読書のことについてなら，何か書けるかもしれないと思いました。そして，「はい，やってみます。」と答えました。

私は小学校二年の時，学校の図書室で，リンカーンか，キュリー夫人の伝記を読みとても感激しました。それが私と読書との関わり合いの最初です。中学，高校時代は，長編を読みました。年齢が進むにしたがって長編には手を出しにくくなると言うのを聞いたことがあったからです。「カラマーゾフの兄弟」や「大地」など読みました。

ふり返ってみると，私はいつも，自分の気持ちに合った読書をしてきました。本を読んでみてつまらないと思ったらすぐやめてしまいます。だから私の読書は「楽しみ」で「乱読」です。

大学に入って，私の読書に新しい要素が加わりました。閲覧室で，大英和辞典を開いたり，レポートのための資料として本を利用したりすることです。この要素は増加傾向にありますが，私の読書の中心にはなりえません。

「私と読書」のテーマで書いてみましたが，高校時代に私にＤをつけた先生に同感なさるか否かは，もちろん全くの自由です。

本あれこれ

図書館と我が家の家宝

北岡　富弥（営繕）

図書館の建築に関連して余談として想い出されるのは，我が家の家宝の事である。

大学校舎の新築設計は昭和38年から始まった。設計者の課題として私立大学校舎の特徴を何処に置くかが協議されたが，図書館の将来性を重視し講堂と共に建築上の見せ場を造る事にした。当時の図書館は一般的に利用度も低く何となく時代遅れのような建物が多かった。私は北海道らしく開放的なゆったりとしたスペースと，特に閲覧室は明るさを取り入れるよう大山先生と緊密に打合せをし，狭い校舎の中で図書館の専有率を広めるよう努力した。又，館員の休憩室を設けるのは優遇し過ぎるとの反対意見も出たが，大山先生と頑張り，随分と苦労したのであった。しかしお蔭で大山先生と親しくなり我が家の宝物を解明する糸口をつかめたことが懐かしくほろ苦く思い出される。

私は10人兄弟の末子ですが昭和28年父が死ぬまで両親と同居したので，形見として父が大切にしていた上杉謙信公直筆の巻物を貰った。これは立派な桐の箱に納まった物で，父が以前，雲水の僧で全国を行脚中病気のため困っているのを助け，後日その僧侶が内地に帰ってからお礼に送ってくれたものである。書体が難かしく読む事もできず，花押の輝虎がわかる位で紙質は古色蒼然，木の皮にでも書いたような感じで手に触ると欠けるような正に骨董品であった。父も知人等に鑑定してもらったが誰も読む事が出来ず，文章の内容もわからず，箪笥の底に眠っていた物である。この話を大山先生にすると，図書室の中に上杉謙信の事を書いた本があるので読んでご覧と，新潟大学井上教授著の「謙信と信玄」を持って来てくれた。早速読んでみると本の中に家宝と同じような文面が載っているのでびっくり仰天，その時の驚きと心臓の高鳴りは今でもはっきり覚えている。父が解き得なかったものを今解明出来た事は大変な喜びであった。私は井上教授に事の顛末を連絡すると直ぐに返信があり，これは大変な事である，今迄の歴史上で出陣に際して，神社仏閣に願文を納め成功を祈っているが二ケ所に奉納した例は無い，早速送って見せて下さいとの事だった。私の友人達はそんな大切な物は送るな，もし途中で事故が生じたら取り返しのつかない事になると大反対だった。どうしたものかと思案している時，丁度図書館の具体的な設計が始まり東京方面へ図書館見学に行く事になったので，私はこれ幸いと途中で新潟大学に立ち寄る事にした。

大学を訪れると井上教授をはじめ県の教育委員の方々や，4,5名の方が居られ，早速その場で披露すると教授は全く気の毒そうな顔で，「これは偽物です」と断定された。読者の皆さんその時の私の顔を想像して下さい。青菜に塩とはこの事でしょう。持って来た時は後生大事にして来た物も，今は一巻の紙屑に過ぎず空しさが残るのみであった。私は折角来たのだから真物を見せて頂き度いと申しますと，すぐに弥彦神社に連絡下され真物を拝観，私の偽物と一緒に写真を写したが，その折，私は偽物を荒々しく

図書館の30年（その1）

1947　5月，藤女子専門学校開校。

1948　藤女子高等学校・藤女子中学校新発足。専門学校職員室隣りの1室を使用した仮の図書室に端を発した。

1950　4月，藤女子短期大学開学。**藤女子短期大学図書室設置。**当時の高等学校・中学校校舎に隣接していた運動場の2階の1室を使用。新制短期大学になるに及んで国文・英文・家政・保育関係書を収集。責任者アガタ山北タツエ，顧問広瀬京一郎教授，館員1名（昭和36年図書委員会発足までは顧問の先生による種々の助言援助）。

1951　3月，藤女子専門学校閉校。

1953　9月，図書室，短大新校舎3階に移転（3教室使用）。

1956　4月，新入学生に図書室利用のガイダンスを空き時間を使って行なう。館員2名。

取扱うと，水戸黄門の様な立派な長い純白な顎鬚を生した宮司さんが，「それは大切に取扱って下さい。もしこの真物が事故で失なわれた時に貴方の物が唯一の証拠品になるのですから。」と言われた。私は，そうだ，上杉謙信の真筆より父の遺品として大切に保管しようと誓った。

あれから15年，月日のたつのは早いもので，藤女子大学も名実共に発展を遂げ新築当時3万冊足らずの蔵書も現在は11万冊になった。大山先生と10万冊を目標とし，当時としては珍らしい3層の書庫を苦心して設計しつつ，何時になったら満杯になるのだろうかと夢を抱いた。その時は隣りの体育館を上下2層にして，上部を書庫にするようにと考えた。閲覧室は明るい感じを出すために高価な複層硝子の一重窓を設けた。とかく批判のあるカウンターも腕の良い家具職人が一生懸命何日もかかって造った苦心の作品である。館長室は出来るだけ大きくして，常時，会議打合わせの出来るようになど，随分と図書館部門に重点を置いたのだが，今ではもはや狭くなり本の陳列にも困る状態で，文化の流れの早いのを痛感させられる。

私の読書時間と空間

川端　ひろ子（体育）

私の住いは小樽の在で，国鉄小樽築港駅を利用している。学生時代から通算すると札幌への列車通勤は20年に渡る。その間，文明の進歩は石炭から重油，電気となり，実質乗車時間も片道60分から45分へ，そして今は38分間となった。それに伴い私の読書時間も短縮してきた。つまり車中が絶対的に確保できる一日の最低読書時間と空間なのである。私は図書館で借りた本や研究資料など大切なものは学内で読むよう心がけており，車中では主として持ち運び易い新書判や文庫本で，その時読みたいものを読むという乱読が多い。この20年間で印象深いことは，スタインベックの「二十日鼠と人間」を読んでいるうちに人間の哀れさが胸にこたえ，声を出して泣いてしまったこと，ロマン・ローランの「ジャン・クリストフ」全8巻の最後の頁を溜息と共に閉じたこと，カフカの「変身」の発想に驚き息をのんだこと，北杜夫の「ドクトルマンボウ航海記」を他人かまわずゲラゲラ笑いながら読んだこと，梅原猛の「地獄の思想」の迫力に感服したこと，石仏の写真を見ているうちに，ふと気づくと自分が石仏のように鎮座していたことなどである。最近では，研究対象のアイヌの舞踊の一つが生活の中からどのようにして発生したかをうかがい知る手がかりとなりそうな一冊の本「日本庶民生活史料集成第四巻」を図書館の方が見つけて下さった。

読み始めるとやめられず，とうとう，例の読書空間へと携えてしまった。その本はB5判，厚さ6cm，重さ2.0kg，821頁の巨体であるが，その読みたさ加減は研究心というより欲望に類するもので，重く大きく，しかも公的共有物であることをもいとわず三日間札樽間を持ち歩いてしまった。

〝塵もつもれば山となる〟の喩え通り，私にとって生活の一部分でしかない，この小さな車中という時間と空間での読書と思考の積み重ねが，今の私を培っている大きな部分を成していると思う。

1958　4月，館員3名となる。

1959　9月，4年制大学設置のための図書，収容スペース等が検討され3教室追加。10月，館員4名となる。

1960　2月，大学図書館設置のための図書等の検討はじまる。6月，ドイツ，ミュンヘン大学教授**ドクターM・シュマウスより図書を寄贈される**（約3,000冊）。

1961　3月，藤女子短期大学図書館規程の検討及び改正（制定年不詳）。4年制用の図書の整理をはじめる。4月，藤女子大学開学。**藤女子大学図書館設置**。館長アガタ山北タツエ，館員4名，蔵書27,544冊 藤女子大学，藤女子短期大学共有図書館。従来の藤女子短期大学図書館を藤女子大学図書館と改称。図書委員会発足。大学開設にあたって，主に国文・英文・外国語関係書を収集。この年より**新入学生の図書室利用のガイダンス，授業時間を用いて行なう。リザーブ・ブック制度はじまる。**

本学の『記念誌』に添えて

小笠原　克（国文学）

昨秋に話がはじまってから，ちょうど一年で『藤女子短期大学30年／藤女子大学20年・記念誌』が，〝駈け込み訴え〟さながらに仕上がった。編集委員会メンバーを「あとがき」に＜高橋雅晴（英文），小笠原克（国文），山崎治子（家政），生富寛（保育），宇野春夫（一般教育），佐々木隆介（別科），鈴木高明・大館光男（図書館）＞と書きこんで，校正も了り本も届き，9月30日の記念式典も終った翌日になって，電流のようにシマッタ！　という言葉が体じゅうを貫いた。この夏休み一杯，この本全体の運びにつきあわされ，人一倍多量の校正を手がけさせられる破目になった＜鈴木智子（国文）＞先生の名を，あろうことか，逸してしまったことに気づいたからである。ヒドイ話だ。はずかしい。

それこれ，大小のミスが指摘され始めるだろうと思えば，ユーウツかぎりない。各科小史のところは必ずしも私だけの責任といえぬが，その他については，あらかじめ先手を打ってお詫びしておかねばならぬ。

もちろん，時間不足が決定的ではあったが，大学の縁の下の力持ちたる事務局小史を欠いてしまったし，学生会スジもメモにとどまった。ソトヅラは〝馬子にも衣裳〟でまあまあだろうが，私一個としてはひと夏を費した思い入れたっぷりに撫でさすり，ひもどく気持はないので

ある。それなのに，皆さん口々におほめくださる。昨春〝平野謙を偲ぶ会〟に出た折，中野重治さんに「お変りもなくて…」とおアイソつかったら，「そう見えるならキミの眼がフシアナだってことになるナ」と笑われたのと，裏腹ながら通い合う思いが（失礼ながら）無くもない。

私は本学文学部誕生の年に赴任したから，今年で20年，ベンベンと居据わってきた。表彰状も，だから頂戴した。これもヘンに落ちつかない。某大学の某事務室で，学内スポーツ大会の表彰状が目についた――＜貴下は上手でもなく若くもないのに，相手のミスに救われ幸運に恵まれて，かくも輝かしい成績をおさめられました。ついては，云々＞。そんな感じがつきまとう。

私一個の20年は，まあ，よしとしよう。大学の20年，30年は，否応なしに前進の歴史であらねばならなかったし，そうあったでもあろう。もっとも，記念祝賀会の席のスピーチで，短大の前身たる≪藤女子専門学校≫を忘れてほしく

1962　3月，洋書の分類をＤＣからＮＤＣに切り替える（当初の該当資料約4,500冊）。9月，北海道地区大学図書館協議会に加盟。10月，新図書館の建築等についての検討はじまる。

1963　3月，**卒論学生用図書長期貸出制度実施**。4月，昭和38年度の学生便覧に藤女子大学図書館案内掲載，以後継続。

1965　4月，館員5名となる。9月，学園創立40周年記念式典。

1966　1月，館員6名となる。2月，新図書館の図面検討。4月，新図書館の建築工事着工。7月，個人研究費についての内規制定。9月，昭和41年度（第10回）北海道地区大学図書館職員研究集会で資料配布，「語学関係参考図書解題（洋書）一本館所蔵分一」（於北海道学芸大学）。

1967　4月，新図書館の備品等についての検討。館

ない旨の言葉もあった。学内の古い資料をあさっていた時，＜先般貴学に配給することに決定した長靴何足は，市内○条○丁目の○会社から受領せられたい＞なんていう通達に，いちばん心を打たれたことも思い出す。教室も狭く少なく，研究室は雑居房さながらだったという。それこれは『記念誌』の「回想」の部にもなまなましい。素朴剛直な〝夢と希望〟がみなぎりあふれる創成期があったことを，現在の学生諸姉は感受してくれようか。図書館は満杯になったけれど，かなりの本のカードは一人の記名者もないと知ったら，女専時代の先輩は何と言うだろう。使い捨てならぬ溜め忘れ時代，ウソ寒いことではある。

この思いは私自身にも向かう。あちこちの図書館でめくり続け筆写し続けた古雑誌が，完全揃いの復刻版になって手許にあると，大事に仕舞いこんでめくりもしない態たらくなのだ。いくつかの個人全集や文学全集に参画してきたけれど，それらも9割まではコピーで間に合うご時勢だから，文体の特色も旧漢字もが，指先の感覚を離れて活字化してしまう。

さてしかし，この『記念誌』には年輪のひろがりと時間の厚みがある。そして，輪をよりひろげ重みを増す仕事が，ここから始まる。図書館常備のこの一冊を，是非ひもどいてほしい。何なら購うがなおのこと結構だ。ここに，紛れもない諸姉の，未生以前の〝詩と真実〟があるからだ。

員8名となる。コロナ奥山わか子，館長に就任。12月，**新図書館完成。**

1968　3月，新図書館へ引越。5月，**新図書館開館。**館員10名，蔵書40,966冊。**文献複写業務はじまる。**藤女子大学図書館利用案内，別刷配布。**キャレル（特別研究閲覧席）使用受付はじまる。**7月，**故宇野親美教授蔵書の寄贈受ける**（約3,000冊）。後日，宇野文庫となる。9月，昭和43年度全国図書館大会「第8部会短期大学図書館」，本学で開催。10月，昭和43年度（第18回）北海道地区大学図書館協議会総会，本学で開催。奥田三郎教授，館長に就任。

1969　1月，図書館ゼミ室使用はじまる。4月，新図書館で新入学生オリエンテーション実施，以後継続。6月，図書館利用案内（小冊子）の発行はじまる。10月，昭和44年度大学図書館職員講習会（文部省）「参考図書の構成と解題一人文・社会科学系を中心として一」，パネルメンバー　森谷智。12月，北海道武蔵女子短期大学司書課程実習生受入はじまる。

1970　6月，北海道地区私立大学図書館協議会に加盟。7月，館員11名となる。

1971　4月，館内の事務組織を整備，館長・館長補佐・総務係・閲覧係・参考係・整理係・逐次刊行物係・書庫係とする。8月，夏季休暇中書庫内ガス消毒はじまる。

1972　4月，館員13名となる。蔵書61,101冊。キャレル利用に加えて**書庫内検索システムはじまる。**5月，図書館業務基準の作成はじまる。10月，藤村潔教授，館長に就任。

1973　4月，藤女子大学図書館規程，藤女子短期大学図書館規程及び各処務規定，奉仕規定等を実施。5月，図書館委員会発足（従来の図書委員会を包括）。7月，昭和48年度私立短大図書館担当者研修会（於北海道会館）「私立短大図書館の今後の課題」，パネルメンバー　大館光男。8月，昭和48年度（第16回）北海道地区大学図書館職員研究集会（於北海道大学），個人発表「文庫本雑感」大館光男。

1974　4月，図書館規程等を改正。藤女子大学・藤女子短期大学図書館規程及び同処務規定，奉仕規定とする。館員14名となる。8月，昭和49年度（第17回）北海道地区大学図書館職員研究集会，本学で開催。図書館公開，事例報告「道内異種館間の相互協力」鈴木高明，資料展示「文庫本の変遷」大館光男。

1975　4月，館内の事務組織を一部変更，館長・館長補佐・総務部（総務係）・奉仕部（閲覧係，参考係，書庫係）・整理部（整理係，逐次刊行物係）とする。5月，宇野文庫の保全作業はじまる。6月，**藤女子大学図書館だより創刊**（年2回発行）。7月，大山清，清水福市記念員受賞。8月，札幌静修短期大学司書課程実習生受入はじまる。昭和50年度（第18回）北海道地区大学図書館職員研究集会（於北海道大学），個人発表「資料の保全について」久保田晴子。9月，定期試験期の臨時措置はじまる（休日開館，時間延長，禁帯出資料の一夜貸出等）。11月，学園創立50周年記念式典。

最新の受入資料から —雑誌—

・文章倶楽部　文芸雑誌・投書雑誌　大正5.5～昭和4.4　通巻 156冊　新潮社発行　加藤武雄ら編集　（所蔵：3年8・10号　7年10号　8年5・10号　9年2号　11巻2号）

・舞台　演劇雑誌　昭和5.1～15.12（第一次）額田六福編　舞台社発行（所蔵：1巻6号　2巻10号　4巻1・11号　5巻4号　6巻6号）

・本の手帖　書物研究雑誌　昭和36.3～45.5　全84冊　昭森社発行　森谷均編集

・プロレタリア科学（復刻版）　プロレタリア科学研究所機関誌　昭和4.11～7.12　プロレタリア科学研究所発行　秋田雨雀創刊

・青鞜（復刻版）　女流文芸雑誌　明治44.9～大正5.2　月刊で全52冊　青鞜社発行　伊藤野枝ら編集　平塚らいてう創刊

・創作（復刻版）　文芸短歌雑誌　明治43.4～44.10（第一期）　全20冊　東雲堂書店発行　若山牧水ら編集

・我等（復刻版）　文芸雑誌　大正3.1～11　全101冊　我等発行所発行　万造寺斉編集

・列島（復刻版）　詩雑誌　昭27.3～30.3　ほぼ隔月刊で全12冊　発行所は2号までが葦会内列島，3号以降が知加書房　3号までが井手則雄編集，4号以降が関根弘

・詩・現実　詩雑誌　昭和5.6～6.6　季刊全5冊　武蔵野書院発行　北川冬彦ら編集

・詩と詩論　詩雑誌　昭和3.9～6.12　季刊　全14冊　4冊まで岡山正一が編集，5冊以降が春山行夫　厚生閣書店　昭和7年より「文学」と改題

・文学　文芸雑誌　昭和7.3～8.12　季刊　全6冊　春山行夫編集　厚生閣書店発行　同書店から発行された季刊誌「詩と詩論」の改題

赤とんぼ　児童雑誌　昭和21.4～23.10　月刊　実業之日本社発行。大仏次郎，川端康成，岸田国士，豊島与志雄，野上弥生子による赤とんぼ会を中心に藤田圭雄が主筆。鈴木三重吉主宰の「赤い鳥」の伝統を受け継ぎ「戦後の混乱した時代に美しい文学の匂いを子供達に……」という願いをこめて創刊。対象は小学上級，中学初級で童話と綴方中心。48～64頁という小冊子ながら，竹山道雄「ビルマの竪琴」，ケストナー原作・高橋健二訳「飛ぶ教室」等という問題作が掲載された。出開未千子の表紙が楽しい。

NEWS....

★自動販売方式の複写機が入りました。 閲覧室の受付前に設置してありますので，自由にお使い下さい。

★雑誌の記事を探し出すカード体目録が整備されました。最近は学問分野別に雑誌記事の累積版が刊行されていますが，このカード体の雑誌記事索引（国文学関係・英米文学関係）特集号等の索引，総目次・総索引も合わせて御利用ください。ことに当館所蔵誌の最新の記事を探し出すには便利です。

★藤女子短期大学開学30周年・藤女子大学開学20周年を記念して本学卒業生で又職員でもあった小川和枝（旧姓 斉藤）さんから下記の図書が寄贈されました。

ミケランジエロ　ヴァテイカン壁画　全2巻
第1巻　システイナ礼拝堂天井画
第2巻　パオリーナ礼拝堂「聖パウロの回心」他
講談社

天理図書館善本叢書　和書の部　全53巻
天理大学出版部

藤女子大学 藤女子短期大学　図書館だより　第12号　1980. 12. 1. 発行
発行者　札幌市北区北16条西2丁目　藤女子大学図書館
印刷者　札幌市東区伏古8条2丁目　天使院印刷製本部